



協会webサイト

- 長崎平和推進協会 令和7年度予算と事業計画・被爆80年記念事業
- 長崎平和フォーラム
- 特別企画展「体験記が伝える 被爆者の思い」
- 市民対象碑めぐり
- 永遠の会3期生 育成講座修了式
- 会員の広場
- 平和祈念像クリアホルダー新発売
- 日本被団協ノーベル平和賞受賞記念展
- 青少年ピースボランティア県外研修
- 平和案内人・継承部会広島合同研修
- 秋月グラント・国際青年平和交流事業参加者募集
- 朗読会「祖母・手島早苗からの手紙」
- アメリカの大学生が缶バッチ4千個寄贈



日本被団協ノーベル平和賞受賞記念「長崎平和フォーラム」(詳細は4～5ページ)

長崎平和推進協会の**予算と事業計画**について



令和7年度は**被爆80年**です。被爆者の平均年齢が85歳を超えるなか、被爆体験の継承と停滞する核軍縮の動きを前進させられるかが課題となっています。悲劇を再び繰り返さないためにも、様々な記念事業に力を入れていきます。

長崎平和推進協会の被爆80年記念事業

大型看板広告電車

大型看板を取り付けた路面電車を走らせ、「長崎を最後の被爆地に」との思いを改めて広くアピールする。【広告電車】4月～12月運行(予定)



平和のためにできる80のこと ～私たちにできることはいっぱいある～

被爆80年にちなみトライしやすい80個のアクションを提案。一人ひとりにできることを可視化し、平和の課題に向き合う入口としての役割を担う。



ナガサキ原爆写真展



写真を通じて被爆の実相を知ってもらい、多くの方に核兵器廃絶への思いを新たにしてもらう。
7月23日(水)～8月4日(月)
場所:長崎市立図書館多目的ホール

朗読劇「ノーモア・ヒバクシャ」



国連演説で知られる山口仙二さんの魂の軌跡を音楽と語りで紡ぐ朗読劇を開催する。
8月31日(日)
場所:原爆資料館ホール

大石芳野写真展

長崎の被爆者に焦点を当てた写真集「長崎の痕」のほか海外の紛争地で撮った写真等を展示する。
9月15日(月・祝)～25日(木)
場所:追悼平和祈念館 交流ラウンジ



平和と音楽の調べ 長崎ピース交響詩 ～音楽が奏でる愛の4楽章～

音楽を通じて平和を身近に感じてもらうことを目的としたコンサート。
10月12日(日)、26日(日)
11月2日(日)、9日(日)
場所:原爆資料館ホール



原爆死没者名簿筆耕



森田孝子大書道展

被爆者の言葉や短歌などに込められた悲痛な叫びを書にしたためて展示し、書道を通して平和を考えてもらう。
10月18日(土)～10月26日(日)
場所:追悼平和祈念館交流ラウンジ

国連軍縮週間行事 市民のつどい



ステージイベントや平和に関連する様々なブースをつくり市民に参加してもらい、平和を考えてもらう日とする。
10月25日(土) 場所:原爆資料館前 階段下広場、平和学習室

平和講演会

フォトジャーナリストの安田菜津紀さんを講師に迎え、混迷する世界情勢や日本被団協のノーベル平和賞受賞を受け、戦争のない平和な世界の構築をテーマにした講演会を実施する。
11月16日(日) 場所:原爆資料館ホール



ピーター・タウンゼントDAY 映画と朗読・音楽で紡ぐ平和への想い

「ナガサキの郵便配達組曲」の演奏・朗読とともに、映画「長崎の郵便配達」の上映を行う。
11月22日(土)
場所:原爆資料館ホール



82,527千円

平和推進事業

5,177千円

法人会計

収入

(千円)

長崎市の補助金	受託事業収入	会費	その他	積立取崩	寄付金
32,874	37,217	5,020	1,812	10,259	522

支出

(千円)

1 広報	2 啓発	3 継承	4 調査	5 育成	人件費・事務費	積立金	法人会計
2,598	11,365	12,055	100	7,668	48,241	500	5,177

皆さまからいただいた**会費**や**寄付金**は、平和推進事業と法人会計で使われます。

左の表は2つの会計の収入と支出を表しています。



1 広報事業

- 会報「へいわ」(年4回)、協会の事業概要をまとめた「平和のあゆみ」(年1回)、「情報BOX」(年8回)の発行等により情報発信を図ります。

- ウェブサイト、SNS等を活用し協会の活動を広く周知します。

2 啓発事業

- 平和学習の実施
被爆体験講話者や外国語ボランティアガイドの派遣、平和学習用のDVD・長崎原爆被災写真パネルの貸し出しを行います。

● 講演会等の開催

平和への意識を高めるための講演会等を催します。

● 国連軍縮週間行事「市民のつどい」開催

国連軍縮週間にあわせて「市民のつどい」を開催し、平和への願いを書き込むエコ風船・戦時食などのコーナー設置やコンサートなどを行います。

3 継承事業

〈長崎市からの受託事業〉

- 県外原爆・平和展開催
長崎県外での写真パネルや被災資料の展示、被爆体験講話の実施やビデオ上映を通して、核兵器廃絶と平和に対する意識高揚を図ります。

● 語り継ぐ被爆体験(家族・交流証言)推進

被爆者の被爆体験を語り継ぐ「家族証言者・交流証言者」を育成・支援し、次世代の語り部への継承を推進します。

● 青少年ピースボランティア育成

青少年が被爆の実相や戦争について学び、平和について考え、行動することにより、被爆体験の継承と平和意識の高揚を図ります。

● 青少年ピースフォーラム

8月8・9日、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年と地元長崎の青少年とが一緒に学習し、交流を深めます。

● 平和学習発表会及び教材等配布

長崎市内の中学生在が日頃取り組む平和学習の成果等を発表する「平和学習発表会」開催の他、副読本「平和ナガサキ」を作成し、市内小中学校へ配布します。

4 調査研究

平和・軍縮関係の会議やシンポジウム等に参加し、情報収集や関係機関との交流・意見交換を図ります。

5 育成事業

● 平和案内人派遣

案内を希望される方に対し、長崎原爆資料館、追悼平和祈念館等や被爆遺構の案内を行う平和案内人を派遣します。

● 部会活動

協会会員の自主的活動を図るための4部会の活動を支援します。

● 国際青年平和交流事業・秋月グラント(P7参照)

273,687千円

追悼平和祈念館運営事業

平成15年に開館した「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」の管理運営を国から受託します。

令和7年度は被爆体験記等の収集に加え、被爆者等を全国の学校等へ派遣したり、被爆80年記念事業として特別企画展や平和映画祭の開催等により、被爆の実相を伝え平和意識の醸成につなげる事業に積極的に取り組みます。



国際平和映画祭

16,969千円

収益事業



原爆や平和に関する書籍やグッズを独自で作成し、ウェブサイトや原爆資料館売店で販売します。

利益の50%は平和推進事業の財源に充てています。



協会SHOP
サイト



PEACE WING NAGASAKI

「長崎平和フォーラム」核廃絶に向け新たな誓い

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞受賞を記念して、被団協の構成団体である長崎原爆被災者協議会（長崎被災協）が主催する「長崎平和フォーラム」が3月8日、ベネックス長崎ブリックホールで開催されました。

（共催：長崎新聞社、特別協力：長崎平和推進協会）

授賞式から3か月ほどが過ぎたものの、ノーベル平和賞について市民の関心は高く、当日は予定を大きく上回る約400人が傍聴に訪れ、国際会議場の2階まで満席となる盛況ぶりでした。

基調講演の中で長崎被災協の田中重光会長は、ノルウェーの首都オスロで行われたノーベル平和賞の授賞式について報告。「メダルを受け取った時は、メダルの重さとともに責任の重さも感じた」と述べ、「被爆80年の前年にノーベル平和賞を授けられた意味を考えると、今年はより一層活動を頑張らなければならない」「皆さんも1か月に1度でいいので、例えば原爆の日になんで毎月9日に、平和についてじっくり考えてほしい」と来場者に呼びかけました。

パネルディスカッションには鈴木史朗長崎市長ら6人が登壇し、ノーベル平和賞受賞の意義や継承活動のあり方などについて意見を出し合いました。被災協の横山照子副会長は「私た



田中会長による基調講演



パネルディスカッション



会場は2階までほぼ満席

長崎原爆資料館 日本被団協

ノーベル平和賞受賞記念展

核兵器禁止条約が発効して4年となる1月22日から3月28日まで、長崎原爆資料館で「日本被団協ノーベル平和賞受賞記念展」が開かれました。

日本被団協は、被爆者が病苦・生活苦・偏見・差別に苦しむなか1956年に長崎の地で発足しました。「ふたたび被爆者をつくるな」を合言葉に半世紀以上にわたって被爆者救済や核兵器廃絶を求めてきた活動の歴史が、約30点の写真・パネルなどで紹介されました。被団協の長年の活動が「核兵器禁止条約」の成立に大きな影響を与えたこともノーベル平和賞受賞の要因として取り上げられていました。

オープニングセレモニーには鈴木史朗市長も出席し「被爆者の血のにじむような努力や取り組みについて、今回の記念展で学び考えてもらい、核兵器なき世界への大きな一歩を踏み出す契機になれば」と挨拶。被団協の横山照子代表理事は「被爆2世や若者たちに被爆者の心を汲み取ってもらい、『長崎を最後の被爆地』という気持ちを持つてほしい」と話しました。

会場にはノーベル平和賞のメダルと賞状のレプリカも展示され、来場した市民や観光客らの注目を集めていました。



日本被団協のノーベル平和賞受賞を県民に報告

長崎被災協に「特別荣誉表彰」

長崎市は2月18日、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の構成団体である長崎被災協に「特別荣誉表彰」を贈りました。

表彰式で鈴木市長は「ノーベル平和賞受賞は長崎市民としての誇りであり、日本被団協で中心的役割を果たしている長崎被災協の活動に敬意を表したい」と述べました。

長崎市の「特別荣誉表彰」は顕著な功績があり、市の名声を高めた個人や団体をたたえるもので、今回が3例目です。



「被爆者がいなくなる『被爆100年』に向けての取り組みを考えなければならぬ」として、「今日の聞き手は『明日の語り手』という言葉を紹介。『今日被爆者の話を聞いた人は、明日ほかの人にこういふ話を聞いたと伝えてほしい。そしてその人が次の人に被爆者の話をしていく。そういふふうには被爆者の体験がずっと広がっていくしてほしい』と語りました。

また、ウクライナをめぐるフランスが核抑止力をヨーロッパ全体に拡大することを検討するなど核を取り巻く世界情勢が不安定となっていることを受け、「核兵器禁止条約を実行力あるものにするため努力しなければならぬ」「日本政府が署名・批准するようあきらめずに前に進もう」といった意見が出されました。



長崎平和推進協会 調理事務 関あいさつ 谷口稜嘩さんラストメッセージ

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

特別企画展

「体験記が伝える被爆者の思い」

長崎市が原爆資料館で開催した記念展の関連企画として、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館では1月22日から3月28日まで、特別企画展「体験記が伝える被爆者の思い」を交流ラウンジで開催しました。

被爆者の渡辺千恵子さん、山口仙二さん、谷口稜嘩さんは、被爆による怪我や大やけどを負い、治療を繰り返しながらも、核兵器の廃絶と被爆者援護のため、被団協の活動の先頭に立ち続けました。その功績をたたえ、3人の紹介パネルの展示とともに、被爆体験が綴られた図書の閲覧コーナーを設け、生前に収録した被爆体験の証言ビデオを上映しました。

図書は日本語で書かれているもののほか、多言語に翻訳されたものも紹介し、証言ビデオは英語字幕を入れたことで、海外からの来館者にも3人の被爆体験と世界平和への取り組みを知っていただく機会となりました。

山口仙二さんが残した「ノーモア ヒロシマ、ノーモア ナガサキ、ノーモア ウォー、ノーモア ヒバクシャ」をはじめ、渡辺さん、谷口さんが国内外の人たちに残した言葉と共に、被爆者の核廃絶に向けてのバトンを受け取った私たちがこれからできることは何か、一人ひとりが考えるきっかけとなった企画展でした。



旧長崎医科大学の被爆遺構・慰霊碑 市民対象碑めぐり



3月9日、継承部会原爆遺跡研修班主催の「市民対象碑めぐり」が行われ約60人が参加しました。まず平和学習室で旧長崎医科大学の遺跡について、写真資料調査部会長・松田齊氏が説明。続いて当協会調漸理^{しへんすむ}理事長が祖父で被爆医師の調来助氏について話しました。また当時の配給切符等の貴重な資料を展示していただき、参加者は手に取り熱心に見ていました。

その後長崎大学医学部内にある遺跡を巡り、昨年新たに発見された遺構も見学。被爆者から当時の様子を聞きました。

被爆80年を迎える今年も若い人にたくさん参加していただき、被爆の実相の継承に繋がる碑めぐりになりました。

青少年ピースボランティア 福岡・鹿児島/沖縄研修



1月25・26日と2月22・24日、青少年ピースボランティアの県外研修を実施しました。1月は川棚や佐世保・大刀洗・知覧を訪れ「軍」から見た戦争をテーマに学習しました。長崎と軍の関わりや軍の作戦について知り、その最前線に立った同年代の若者にも焦点を当てて考えました。2月に訪れた沖縄では、沖縄戦や戦前戦後の実態を住民目線で学びました。

いずれの研修も気持ちの整理がつかず、沢山悩み、考えながら学ぶ様子が見受けられました。参加者は「戦争が一度始まると命が消耗品として扱われる。こんな世にならぬよう出来ることをやっていけたら」と決意を新たにしていました。

被爆体験を語り継ぐ 永遠の会 3期生 育成講座修了式



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館では、被爆体験記朗読ボランティア「被爆体験を語り継ぐ・永遠の会」第3期生育成講座の修了式を3月1日に行いました。

昨年10月より始まった育成講座（全14回）は、三瀬清一朗氏による被爆体験講話に始まり、碑めぐり、NHK長崎放送局のアナウンサーを講師に迎え朗読の仕方などを学び、八木道子氏の被爆体験講話で締めくくられ、23人が修了しました。

4月からは「永遠の会」のメンバーとして、被爆体験記に綴られた被爆の実相・平和への願いを、次世代に伝えていく担い手としての活躍を期待します。

平和案内人・継承部会 広島合同研修



3月4・5日、平和案内人・継承部会広島合同研修を実施し30人が参加しました。

1日目は、原爆死没者慰霊碑前で黙とうを捧げ、続いて被爆体験講話を拝聴。その後各自で広島平和記念資料館を見学しました。

2日目は、ヒロシマ・ピースボランティアの皆様に案内いただき、平和記念公園を回りました。碑めぐり後には交流会を実施し、ガイド時における工夫点やスキルアップの方法、被爆体験継承の方法等について話し合いました。

あつという間の2日間でしたが、たくさん意見が出されて交流が深まり、大変有意義な研修となりました。

秋月グラント・国際青年平和交流事業 参加者募集

当協会は「核兵器廃絶と世界恒久平和」の実現を目指して活動する個人・団体の活動を支援しています。年齢制限のない「秋月グラント」、若者を対象とする「国際青年平和交流事業」の企画募集を開始します。この機会に、やってみたいことに挑戦しませんか？平和に関する企画を、ぜひ、ご応募ください。

●応募詳細は、当協会ウェブサイト「お知らせ」コーナーで紹介します。



秋月グラント



国際青年平和交流事業

秋月グラント



助成対象 次のいずれかに該当する方

- ①国内外で事業を実施する、長崎県内の個人または団体
- ②長崎県内で事業を実施する、長崎県外の個人または団体

助成対象事業 次のいずれかに該当する事業

- ①被爆・戦争体験を後世に伝えるための活動企画
- ②国内外において、国際的な平和交流を目的とした新規の活動企画
- ③調査研究・資料収集・教育などの幅広い平和啓発のための新たな活動企画
- ④その他、被爆体験の継承や平和意識高揚のための活動企画

募集期間 5月1日～6月30日 **助成金額** 上限20万円(全体事業費の4分の3の範囲内)

申請方法 協会ウェブサイトにある申請用紙に必要事項を記入しメールまたは郵送

国際青年平和交流事業



募集対象 長崎県内在住の15～29歳までの個人またはグループ(中学生を除く)

※高校生(または18歳未満)をメンバーに含む場合、責任者が必要です

企画(事業)テーマ

「自分たちが考える国際・平和交流プログラム」

原爆・核兵器・環境・教育などの社会的・国際的な問題について、

①・②いずれかに該当するもの

①世界の若者と長崎の若者との交流や相互理解を図るためにやってみたいと思う活動、または日頃から取り組んでいる内容を更に発展させた活動

②原爆や平和、国際交流について学ぶ、または考える機会を取り入れているもの

募集期間 5月1日～6月30日 **補助金額** 個人:上限10万円 グループ:上限20万円

※市・県・他団体などから他の支援金等の助成を受けていないことを条件とします

応募方法 協会ウェブサイトにある申請用紙に必要事項を記入しメールにて送信

NO. 32

シンガーソング
ライター
上奥まいこ
(長崎市出身)



その気持ちは今も続いています。近年では学校などで子供たちに音楽を交えて伝えて欲しいと言っていたことも増えました。これから心して「メッセンジャー」を目指していこうと思います。

そこに流れていた「空気」でした。言葉にせずとも伝わる平和を願う長崎の想い。私は長崎で吸収した想いを受け取って、長崎から外へ運び伝える「メッセンジャー」になりたいと思いました。

8年前、慰霊の場で初めて「影おくり」を歌わせていただいた「平和の灯コンサート」。(以前は平和の泉現在は爆心地公園で開催)具合が悪くなるほど緊張して臨みましたが、その場に立つと悩みは一気に解決しました。

特別ではない、ましてや経験してない私が原爆のことを人前で歌ったり話をして良いのだろうか。県外ではまだしも、長崎に住む自分と同じ環境の人や諸先輩方の前で私が原爆について表現するなんて、おこがましいのではないかな。

被爆者である祖父母の話に基づいた曲、それが「影おくり」。今は毎年、慰霊の場で歌わせていただいている曲ですが、発表するまでには勇気と時間が必要でした。



Peace Wing Nagasaki
会員の広場

(前号からの続き)

TOPICS! へいわトピックス



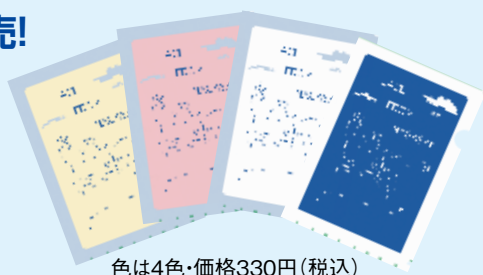
朗読会「祖母・手島早苗からの手紙」開催

秋月グラント助成事業の一つである、平和朗読用物語の制作発表会「祖母・手島早苗からの手紙」が、1月25日、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジで開催され、作品が上演されました。

多くの方の被爆体験を基に創作された物語で、朗読にあわせてイラストを映し出し、ピアノとファゴットの演奏とともに被爆の実相と平和の尊さを伝えました。学生をはじめ幅広い年齢の方が来場し、涙を流しながら聞き入っている人もいました。被爆80年に向け、改めて平和の尊さを考える機会になりました。

新商品「平和祈念像クリアホルダー」(A5サイズ)を発売!

協会オリジナルの新商品「平和祈念像クリアホルダー」が完成しました。デザインしたのは社会福祉法人南高愛隣会「WORKながさき」です。協会では販売している折り紙を使った商品作りを障がい者の方に委託したのが縁となりデザインをお願いしました。しかも今回は通常のクリアホルダーより小ぶりのA5サイズ。女性や若者から「A4サイズではバッグに入らない」との声を受けサイズダウンしました。4月1日より当協会SHOPサイト、原爆資料館売店で発売開始です。協会SHOPサイト



色は4色・価格330円(税込)



アメリカの大学生が缶バッチ4,000個寄贈

6年前に来館したアメリカ・ミシガン州のサギノー・バレー州立大学の学生が、「平和、核兵器廃絶、友情、日本」などをイメージした「缶バッチ」約4,000個を作成し、昨年12月末に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館に寄贈されました。「祈念館を訪れた方々にプレゼントして平和への思いを共有したい」との申し出に沿い、現在、手記閲覧室前に持ち帰りコーナーを設置しています。アメリカの若者たちの「平和な世界にしたい」との思いを多くの方に共有していただきたいです。

世界の現役核弾頭の数 (今年度より「全保有核弾頭数」から「現役核弾頭数」表示に変更)

	ロシア	米 国	中 国	フランス	英 国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2024年 6月1日	4,380	3,708	500	290	225	170	170	90	50	9,583

情報提供：長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

寄附者紹介

ありがとうございます

● 深町明裕

(敬称略)
四万円

● 上西和紀

一万円

● 川上正徳

一万円

● 平和町商店街振興組合

一万円

● 丸田和男

一万円

● 木村恵美子

五千元

● 廣瀬悦久子

三千元

● 土井まゆみ

二千元

● 石郷岡政広

千円

● 匿名

三万四千元

皆様から寄せられたご寄附は、平和推進事業の貴重な財源として活用させていただきます。また、香典返しや退職祝返しをご寄附いただきますと、挨拶状・礼状・封筒をご用意いたします。ぜひ当協会にご寄附をお寄せください。

会員数報告

◎ 維持会員

1,088名

◎ 賛助会員

184名

◎ 学生会員

96名

令和7年2月28日現在
賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。

ご支援・ご協力誠にありがとうございます。会員拡大にもご協力をお願いいたします。

当協会の活動は皆様の会費に支えられています。

お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。どうか、事務局までご連絡ください。